

ベルハンマーよくある質問集 車編

ベルハンマーを車に使用しているお客様からよく頂くご質問を問答形式でまとめてみました。
下記 ご注意（免責）をご確認のうえ参考にして下さい。

ご注意（免責）

ブレーキ・クラッチ・特にバイクのエンジンオイル（湿式クラッチ）等、摩擦で動作を制御する箇所には絶対に使用しないでください。

本商品は自己責任にて使用をお願いします。

本製品を使用した塗布対象物の物性変化それに伴う動作等の影響に関しては 一切保障いたしません。

LS BELL HAMMER Standard

Q エンジンオイルのオイル添加剤としても使えますか？

A LS ベルハンマー原液のみ使用可能です。（H1 ベルハンマーは絶対に使用しないで下さい。）



← エンジンオイル説明動画はこちら

Q 他のどのようなオイルと混ぜても問題はございませんでしょうか？

A エステル、鉱物、シンセ系、問わず問題なく使用可能です。

Q 車や減速機のエンジンオイルへのLS ベルハンマー原液の添加割合を教えてください？

A エンジンオイルまたは機械装置減速機オイルの5~10%添加を推奨しています。

通常の乗用車のエンジンオイルが4リットルくらいですので

300ml 缶1本添加で約7%になります。

14%以上添加しても、それ以上の効果は期待できません。

自己責任にてご使用下さい。

Q LS ベルハンマーの粘度、オイル番手を教えてください。

A オイルの粘度（動粘度）は78cs という工業規格になり

VG規格でいうところのVG68相当になります。

車のオイル番手としては合わせておりませんが、おおよそでは30番手前後になります。

Q LS ベルハンマーをエンジンオイルに添加するとどんな効果がありますか？

A エンジンのタペット、カム等のノイズが静かになり、シリンダー、カム、クランク等の延命につながります。

Q 添加剤として使用する際は、エンジンオイル交換ごとの添加ですか？

A 基本的に、エンジンオイル交換時の都度添加になります。

Q ディーゼルエンジン(クリーンディーゼル)に添加できますか？

A 通常、問題ございません。

DPF のメッシュ詰まりは

③ オイル上がりをする ②ピストンリングが極端に摩耗している ③固体系の添加剤が詰まる
などが主な原因になります。

LS ベルハンマーは固体系の添加剤は使用しておりません。

推奨はLS ベルハンマー原液を 5~10%添加になります。

Q ディーゼルトーボエンジンに添加できますか？

A 問題なく使用可能です。

Q ATフルード(オートマチックトランスミッションフルード)やCVTフルードに使用できますか？

A ATフルード(オートマチックトランスミッションフルード)やCVTフルードには使用しないでください。

ポンプやステーター、チェーン、スプロケットなどの

摩耗を減らす効果は期待できると思いますが

メーカーが設計したフルードの流動性を損なう恐れがあります。

実験的に使用したいということであれば構いませんが

弊社としては結果に責任が持てませんので

自己責任にてご使用ください。

Q 車のサスペンションのショック部分に使用できますか？

A 問題なく使用可能です。

インナーチューブ、ピロともに摺動性があり、良好な動きになります。

Q LSD(リミットスリップデフ)にも使用できますか？

A LS ベルハンマーは基本、ドグを噛む箇所での使用を前提としており

機械式、その他、多種多様な LSD(リミットスリップデフ)がありますが、

あえて摩擦により伝達する箇所ですから基本的には使用は推奨いたしません。

Q オイルに添加した場合、クロスハッチに対する影響はあるか？

A クロスハッチ(ホーミング)を埋めることはなく、ホーミングとリング双方の延命や

クランク、カム、タペット等のノイズ削減及び、延命に繋がります。

 スプレーを使ってエンジンオイルに添加してもいいのでしょうか？

 スプレーでの添加はおやめください。

基本的にLS ベルハンマー原液タイプをご使用ください。

 デフオイルやミッションオイルには添加できますか？

 車のミッションには、通常問題なく使用可能です。

デフは車種、年式、グレードにより大きく異なり、使用可能、使用不可の双方がございます。

基本は内燃に関しましては、クラッチのような摩擦を利用して推進力を得るものは使用不可です。

ドグ(犬の歯)を噛む機構、および滑りを有効利用している箇所には使用可能です。

添加量はエンジン同様、推奨は5%~10%添加になります。

 ベルハンマーの原液タイプをエンジンオイルに添加して、
オイル交換後に添加しなかった場合も効果はありますか？

 一定時間効果は持続しますが、いずれは元通りに戻ってしまいます。

フラッシングした場合はより短期スパンで元通りになります。

LS BELL HAMMER GOLD

Q エンジンオイルのオイル添加剤としても使えますか？

A LS ベルハンマー原液のみ使用可能です。(H1 ベルハンマーは絶対に使用しないで下さい。)



← エンジンオイル説明動画はこちら

Q 他のどのようなオイルと混ぜても問題はございませんでしょうか？

A エステル、鉱物、シンセ系、問わず問題なく使用可能です。

Q 車や減速機のエンジンオイルへのLS ベルハンマー原液の添加割合を教えてください？

A エンジンオイルまたは機械装置減速機オイルの5~10%添加を推奨しています。

通常の乗用車のエンジンオイルが4リットルくらいですので
300ml 缶1本添加で約7%になります。

14%以上添加しても、それ以上の効果は期待できません。

自己責任にてご使用下さい。

Q LS ベルハンマーの粘度、オイル番手を教えてください。

A オイルの粘度(動粘度)は78cs という工業規格になり

VG規格でいうところのVG68相当になります。

車のオイル番手としては合わせておりませんが、おおよそでは30番手前後になります。

Q LS ベルハンマーをエンジンオイルに添加するとどんな効果がありますか？

A エンジンのタペット、カム等のノイズが静かになり、シリンダー、カム、クランク等の延命につながります。

Q 添加剤として使用する際は、エンジンオイル交換ごとの添加ですか？

A 基本的に、エンジンオイル交換時の都度添加になります。

Q ディーゼルエンジン(クリーンディーゼル)に添加できますか？

A 通常、問題ございません。

DPFのメッシュ詰まりは

④ オイル上がりをする ②ピストンリングが極端に摩耗している ③固体系の添加剤が詰まる
などが主な原因になります。

LS ベルハンマーは固体系の添加剤は使用しておりません。

推奨はLSベルハンマー原液を5~10%添加になります。

Q ディーゼルターボエンジンに添加できますか？

A 問題なく使用可能です。

Q ATフルード（オートマチックトランスミッションフルード）やCVTフルードに使用できますか？

A ATフルード（オートマチックトランスミッションフルード）やCVTフルードには使用しないでください。

ポンプやステーター、チェーン、スプロケットなどの

摩耗を減らす効果は期待できると思いますが

メーカーが設計したフルードの流動性を損なう恐れがあります。

実験的に使用したいということであれば構いませんが

弊社としては結果に責任が持てませんので

自己責任にてご使用ください。

Q 車のサスペンションのショック部分に使用できますか？

A 問題なく使用可能です。

インナーチューブ、ピロともに摺動性があり、良好な動きになります。

Q LSD（リミットスリップデフ）にも使用できますか？

A LSベルハンマーは基本、ドグを噛む箇所での使用を前提としており

機械式、その他、多種多様なLSD（リミットスリップデフ）がありますが、

あえて摩擦により伝達する箇所ですから基本的には使用は推奨いたしません。

Q オイルに添加した場合、クロスハッチに対する影響はあるか？

A クロスハッチ（ホーミング）を埋めることはなく、ホーミングとリング双方の延命や

クランク、カム、タペット等のノイズ削減及び、延命に繋がります。

Q スプレーを使ってエンジンオイルに添加してもいいでしょうか？

A スプレーでの添加はおやめください。

基本的にLSベルハンマー原液タイプをご使用ください。

Q デフオイルやミッションオイルには添加できますか？

A 車のミッションには、通常問題なく使用可能です。

デフは車種、年式、グレードにより大きく異なり、使用可能、使用不可の双方がございます。

基本は内燃に関しましては、クラッチのような摩擦を利用して推進力を得るものは使用不可です。

ドグ（犬の歯）を噛む機構、および滑りを有効利用している箇所には使用可能です。

添加量はエンジン同様、推奨は5%~10%添加になります。



LS ベルハンマーの原液タイプをエンジンオイルに添加して、
オイル交換後に添加しなかった場合も効果はありますか？



一定時間効果は持続しますが、いずれは元通りに戻ってしまいます。
フラッシングした場合はより短期スパンで元通りになります。

LS・GOLD・H1 ベルハンマー 耐油表

(注) 下記データは室温によるデータです。

高温等で使用する場合は、試験片による実用試験にて確認して下さい。

下記 ご注意（免責）をご確認のうえ参考にして下さい。

ご注意（免責）

工業製品に使われているゴム・樹脂・プラスチックは無数の種類・物性・特性があります。

あくまで参考資料として耐油表をお使い下さい。

本製品を使用した塗布対象物の物性変化それに伴う動作等の影響に関しては一切保障いたしません。

① ゴムに対する影響

ゴムの種類（略号）		ゴムの種類（略号）	
天然ゴム (NR)	×	ニトリルゴム (NBR)	◎
ブタジエンゴム (BR)	×	アクリルゴム (ACM)	◎
スチレンゴム (SBR)	×	ウレタンゴム (U)	◎
ブチルゴム (IIR)	×	シリコンゴム (Si)	○△
エチレン・プロピレンゴム (EPM)	×	フッ素ゴム (FPM)	◎

② プラスチック・樹脂に対する影響

プラスチック・樹脂の種類（略号）		プラスチック・樹脂の種類（略号）	
塩化ビニル樹脂/軟質 (PVC)	△	フッ素樹脂 (PTFE)	◎
塩化ビニル樹脂/硬質 (PVC)	○	ポリカーボネイト (PC)	◎
ポリスチレン (PE)	—	メチルペンテン樹脂 (TPX)	◎
ABS (ABS)	◎	ポリウレタン (PU)	—
ポリエチレン (PE)	△	フェノール樹脂 (PF)	◎
ポリプロピレン (PP)	○	メラミン樹脂 (MF)	◎
ナイロン (PA)	◎	エポキシ樹脂 (EP)	○
アクリル樹脂 (PMMA)	○		

◎：全くあるいはほとんど影響がない ○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える

△：なるべく使用しないほうが良い ×：大きく影響があるため、使用に適さない

—：データ無し